

『G-Pネット』って？

「G-Pネット」のおかげで
精神科と一般病院の《補い合い》が
スムーズになったんだ！

だと自負しています。

清水 近年、一般救急を訪れる精神科救急の患者数は
うなぎのぼりで増えています。おそらく、すでに救急
患者全体の2割程度は精神科救急でしょう。その意味
で、我々の「G-Pネット」のニーズは今後ますます
高まっていくでしょうね。

Q 昨今、全国各地で「G-Pネット」が立ち上げられ
ていますね。その中であって、おうばく病院を核とし
た「G-Pネット」の長所を挙げるとしたら？

岡 他地域の「G-Pネット」には、一対一、つまり精
神科病院と一般病院が一つずつのものが多くですね。
その中であって、うちは8つの一般病院が加入してい
ますから、まさに地域全体で取り組んでいるところが
大きな強みだと思います。

ありがとうございました。



取材と原稿／前原政之（まえはらまさゆき）

1964年 栃木県生まれ。1年のみの編プロ勤務を
経て、87年 23歳でフリーに。ライター歴30年。



『G-Pネット』おさらい

ほかの病院と連携する
「G-Pネット」とは？

「G」はGeneralist—一般医、「P」はPsychiatrist—精神科医の略です。
つまり、当院と地域の総合病院が連携して、患者さんにとっていちばん適切な医療を提供するためのネットワークです。
当院には内科もありますが、外科はないので、たとえば当院の患者さんが深刻な外科疾患を抱えた場合、当院で治療を継続することは難しい。逆に、総合病院に入院している患者さんが精神疾患を併発して、そこでは対応できないというケースもあります。そのように、双方の病院が連携することで治療がうまくいく場合が多々あるので、「困ったときには助け合いましょう」という協力体制を整えておくことはお互いにとって重要なんです。

「G-Pネット」には、
いくつぐらいの病院が
参加しているのですか？

元々は当院が独自に、近隣の3つの総合病院との連携のための会を作りました。
そこから派生して、京都府が病院間の連携システムを作ったのが、現在の「G-Pネット」です。いまでは、8つの総合病院と当院を主とした精神科病院が連携するネットワークになっています。

「G-Pネットがあることで
助かった」という事例には
どんなものがありますか？

たとえば、当院の精神科救急で受け入れた患者さんの意識レベルが急激に下がって、当院では対応しきれなかったケースを総合病院に回して命が助かったケースがあります。
逆に、骨折して総合病院に入院した患者さんが、急を要する精神疾患の症状を呈したので、当院に転院してきた例もあります。

おうばく病院を核とした
「G-Pネット」の長所は？

他地域の「G-Pネット」には、一対一、つまり精神科病院と総合病院が一つずつのものが多くですね。その中であって、当院の「G-Pネット」は8つの総合病院が加入していますから、まさに地域全体で取り組んでいるところが大きな強みだと思います。
「G-Pネット」は、一般の患者さんの目にはまったく触れないシステムです。しかし、医療関係者の間では、「G-Pネットを立ち上げてから、この地域の精神科受け入れ対応が改善された」という声はけっこうあります。その意味で、地域医療に貢献できている試みだと自負しています。